

5 ハボタン黒腐病に対する罹病性の品種間差

ねらいと成果

ハボタン黒腐病は、*Xanthomonas campestris* pv. *campestris* が引き起こす細菌病で、近年増加傾向にある。ハボタン生産現場において、有効な防除法がないため、同病に対する耕種的対策の一環として、5品種間の罹病程度について試験した。その結果、「パラマウント」がもっとも強く、「紅寿」がもっとも弱いことを明らかにした。

内容

1 試験方法

(1) 処理方法

試験は農業技術センター内ガラス温室で行った。2002年8月6日に400穴トレイに5品種（パラマウント、紅はと、白はと、紅寿、紅寿2号）の種をまき、育苗した。1カ月後の9月5日に9cmポットに移植した。区制は各品種5株3反復とし、黒腐病細菌を 8×10^8 cfu/mlの懸濁液とし、tween20を0.05%となるように添加した後、9月30日に十分量を噴霧接種した。接種後は2日間ポリ袋で保湿した。

(2) 調査方法

発病調査は噴霧接種10日後の10月10日に全株につ

いて展開上位葉から8葉ずつ、発病葉数及び病斑数について調査した。

2 結果

(1) 図1のとおり発病葉率で比較すると、丸葉系では「紅寿」が43.2%と最も多く、ついで「紅はと」の31.1%、「白はと」の23.4%、「紅寿2号」の17.5%となり、ちりめん系の「パラマウント」が6.1%と最も少なかった。

(2) 1葉当たり病斑数で比較しても同様に、「紅寿」が2.3で最も多く、ついで「紅はと」1.3、「白はと」1.0、「紅寿2号」0.4で、「パラマウント」が0.1と最も少なかった。

(3) 以上より、黒腐病に対する罹病程度は、「パラマウント」 > 「紅寿2号」 > 「白はと」 ≧ 「紅はと」 > 「紅寿」の順であった。

普及上の注意事項

「紅寿」については、特に黒腐病に弱いので、発病の多いほ場ではできれば他の品種に切り替えるなどの措置を勧める。

神頭 武嗣（農業技セ・病害虫防除部）

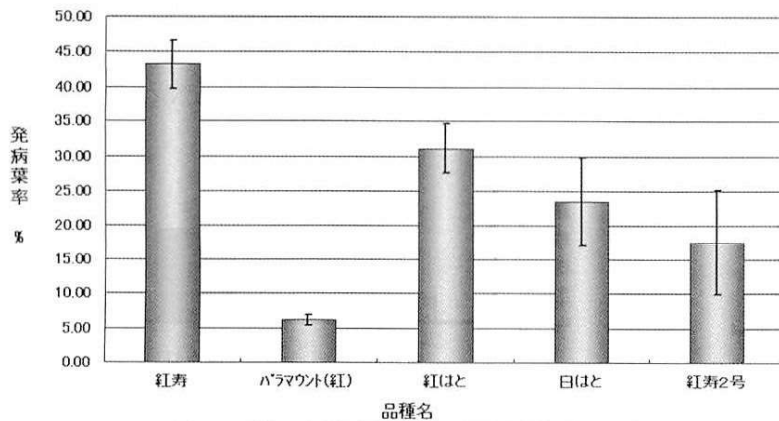


図1 ハボタン黒腐病罹病性の品種間差異(2002年)



図2 ハボタン黒腐病の病徴